

中部様式

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 愛知県公共交通協議会

令和5年1月20日設置（愛知県バス対策協議会を改組）

令和5年6月30日 地域間幹線系統確保維持計画策定

令和6年6月11日 愛知県地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和6年6月～令和9年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域間幹線系統確保維持国庫補助金

## ○令和7年度愛知県地域公共交通計画

- ・愛知県バス対策協議会において、**33系統**を位置付け。

(県計画に位置付ける系統の考え方)

- ・事業者が運営主体の系統
- ・市町村の計画に位置付するのが困難な系統
- ・愛知県バス運行対策費補助金の補助対象系統

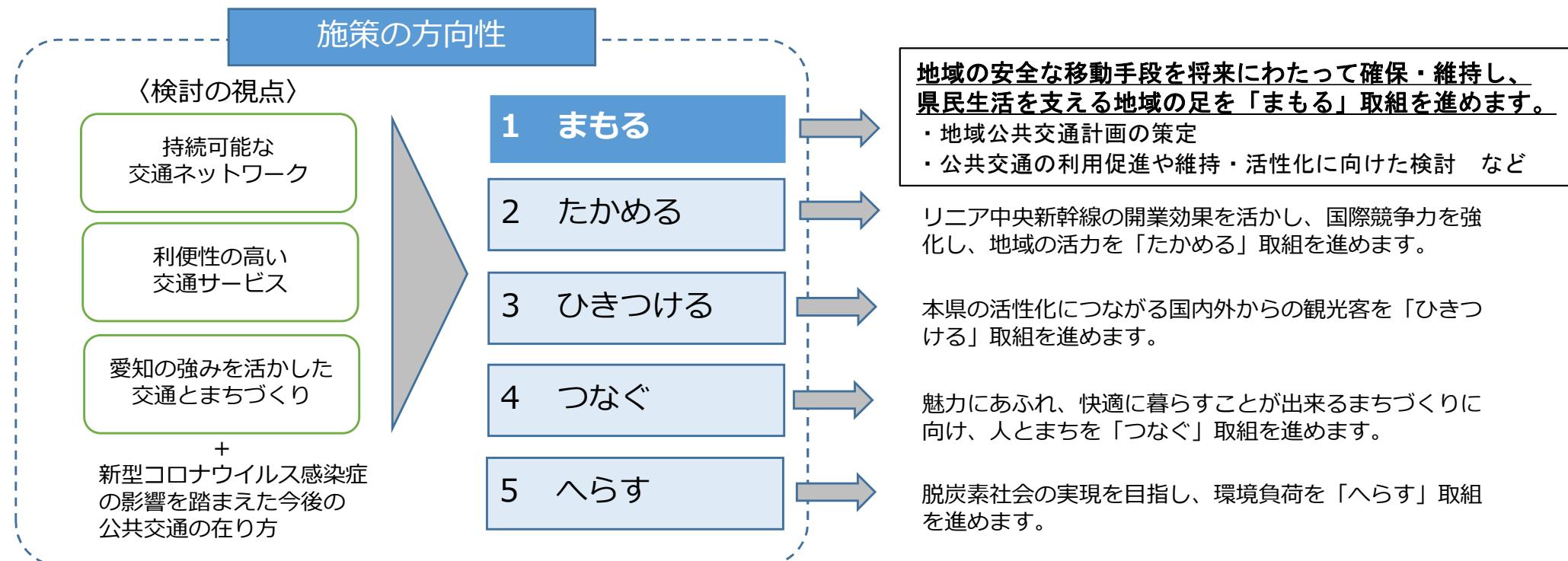
- ・交通圏別では、右表のとおり。

交通圏	系統数
名古屋	2
豊橋	7
岡崎	5
一宮	0
瀬戸・日進・豊明	5
東海・半田・大府・常滑・美浜	7
小牧・犬山・江南	2
津島・あま・弥富	2
刈谷・安城・碧南・西尾	5
豊田	3
新城	4

※複数交通圏に跨る系統は重複計上

## 【参考】あいち交通ビジョン（取組期間：R4～R8）との関連性

ビジョンでは、目指すべき姿を「危機を乗り越え、輝く未来へつなぐ　あいちの交通　～モビリティ先進県を目指して～」と掲げて、持続可能な交通ネットワークの構築に取り組んでいる。



## ○愛知県地域公共交通計画の推進

持続可能な公共交通の確保・充実に向けた方針や取組を示す「愛知県地域公共交通計画」を令和6年6月に策定。

国・県・市町村・交通事業者・県民等の役割分担のもと、県として取り組む施策を位置付け。

### ○目指す公共交通像

安心・便利な暮らしと、活発な経済活動を支える公共交通の維持・充実。

### ○主な県の施策

目指す公共交通像の実現に向け、3つの基本方針に基づき、取組を推進する。

#### 方針1 広域的な移動を支える幹線軸の維持・充実

- 名古屋駅のスーパーターミナル化を推進
  - 鉄道駅の施設・設備のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の取組を促進
  - 地域鉄道が実施する安全安定輸送に必要な修繕・設備投資を支援
  - ホーム拡幅やコンコース拡大等の駅総合改善事業を支援
  - 市町村間交通を支える路線バスに対し運行経費を補助
- など

#### 方針2 公共交通ネットワークを支える仕組みづくり

- タクシー、乗合タクシー、新モビリティ等の活用方法を検討 など

#### 方針3 公共交通をみんなで使い、支え、育てる意識の醸成

- 自動車から公共交通への転換を促進するための情報発信や啓発を実施 など

## ○愛知県・市町村人口問題対策検討会議（地域交通確保ワーキング）

人口減少地域を抱える構成員（11市町村）、オブザーバー（22市町村）とともに、人口減少下における公共交通の課題と対応についての情報共有及び意見交換を実施。

## ○愛知県バス運行対策費補助金の要件緩和

「地域交通確保WG」での議論のうち、幹線軸の交通の維持・充実について地域内の交通だけでは生活圏を守れないため、複数市町村にまたがる交通が重要との共通認識を得た。

のことから、バス運行対策費補助金について補助要件の一部見直しを実施。

項目	改正前	改正後
市町村域	原則現在の市町村	平成の大合併前（2001年3月31日時点）の市町村
運行距離	10km未満の系統は対象外	距離による <u>制限廃止</u>
運営主体	市町村運営は対象外	人口減少が著しい旧市町村の地域に関わる路線のうち、一定以下の財政力指数の市町村が運営する路線は <u>補助対象</u>
輸送量	一定の利用に満たない場合はその年度から対象外	<u>2か年連続</u> 一定の利用に満たない場合に対象外
収入	経費に対して一定以上の収入がない場合は対象外	収入による <u>制限廃止</u>

要件緩和により、これまで補助対象外となっていた5系統に対して新たに補助金を交付

## ○地域交通人材育成に関する取組の実施

公共交通事業者（バス・タクシー）や県内市町村職員等を対象に、地域における交通やまちづくりに取り組む人材を育成するためセミナーを実施。（第1回：令和7年10月27日 第2回：令和7年11月18日 現地視察会：令和7年11月27日）



（第1回の様子）



（第2回の様子）



（現地視察会の様子）

## ○複数市町村を跨ぐ系統の関係者間調整を支援

市町村、事業者とそれぞれ密にコミュニケーションをとることで、状況を積極的に把握し、事業者に対して必要な情報の提出を促すなど、関係市町、事業者が円滑に調整・検討が推進できるように支援を実施。

### ○ A I オンデマンド交通の社会実装に向けた実証実験の実施

南知多町において、隣接町を含む目的地までの運行を行う「チョイソコみなみちた」を使った実証実験を実施。（実証期間：令和7年9月～令和8年1月）



### ○ 尾張北部地域M a a Sの社会実装に向けた実証実験の実施

尾張北部地域において、バスロケーションシステムポータルサイト「おとなりバスなび尾張北部」を新たに構築し、実証実験を実施。（実証期間：令和7年9月～12月）



### ○ 広域的な路線の利用促進イベントへの協力

- ・県と包括連携協定を結ぶ企業と連携し利用促進イベントを開催
- ・県施設での周知や、県主催のイベントでチラシを配布することで広報活動を支援



## <地域間幹線系統の評価>

### ○評価指標の設定

把握しやすく取組の成果がイメージしやすい年間利用者数を目標に設定

### ○評価の実施方法

系統ごとに調査票を作成し、運行主体により実績などを記載の上、沿線市町村に実施した利用促進の取組や所見を持ち回りで記載してもらう方式で情報集約を図った。

### ○評価指標の達成状況等

#### 《幹線系統全体の利用者数及び対前年推移別系統数》

R7年度	R6年度	増減率
2,799,113人	2,779,660人	0.7%増

利用者の増減区分	系統数
増加 (105%~)	12(11)
横ばい (95~105%未満)	12(13)
小幅減 (80~95%未満)	8(8)
大幅減 (80%未満)	1(1)

※カッコ書きは前年度の数値。

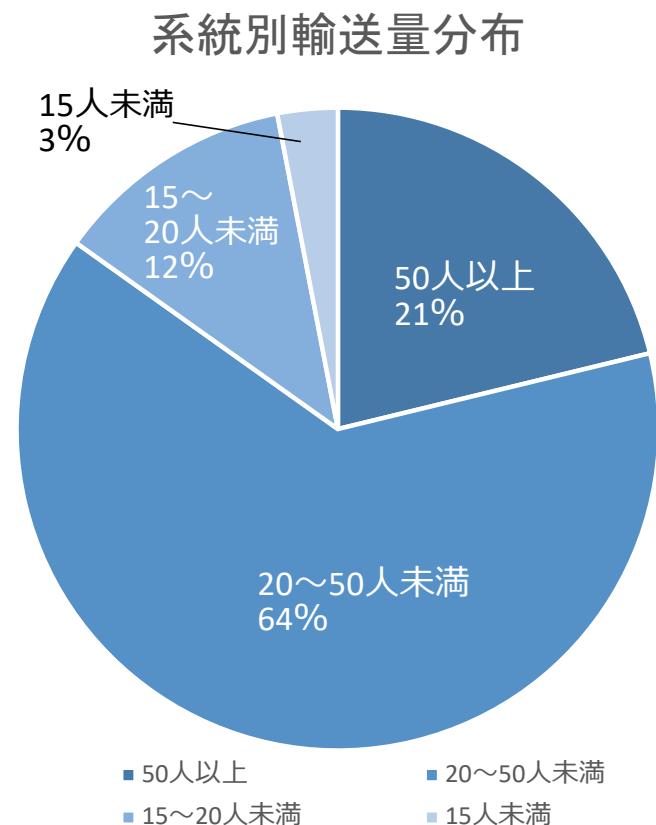
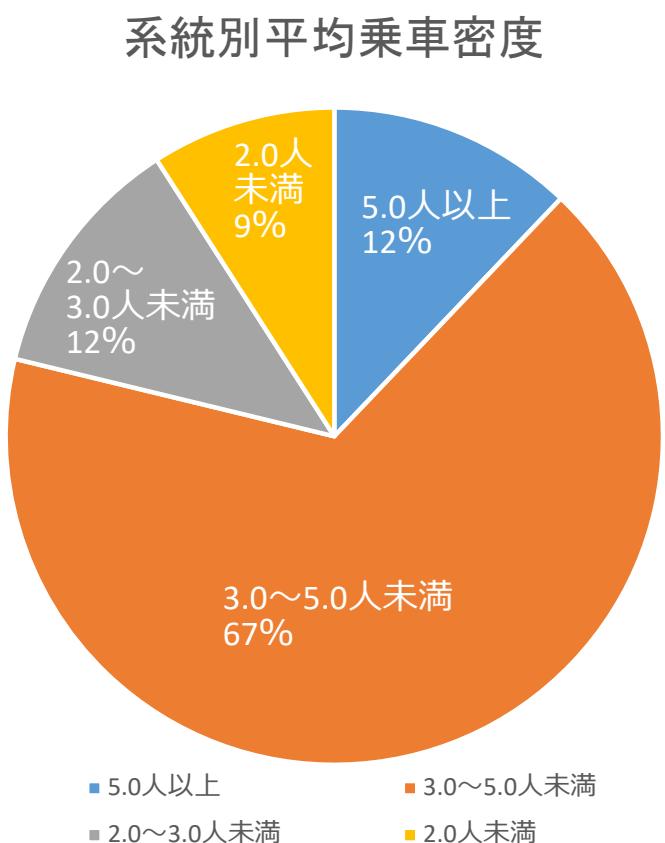
#### 《目標実績別評価系統数》

A評価	増加 (100%~)	22(28)
B評価	減少 (75~100%未満)	11(4)
	減少 (50~75未満)	0(1)
C評価	半数減 (50%未満)	0(0)

※カッコ書きは前年度の数値。

- ◇幹線系統全体の利用者は、0.7%増となり、全体の利用者数は一定数維持された。
- ◇路線ごとに見ると、増加が12系統、横ばいが12系統となっており、多くの路線が前年度と比べ同程度以上の利用者数であった。
- ◇前年度に比べ利用者数が2割以上減少した1系統は、昨年度比で利用者数が大きく減少しているものの、昨年度を除くと令和3年度以降、年々増加している。また、収支率も78%確保できていることから、系統を維持していく問題はないと考えられるが、今後の動向を注視する。

### 3. 【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察



系統別平均乗車密度	
5.0(人)以上	4(5)
3.0~5.0(人)未満	22(18)
2.0~3.0(人)未満	4(8)
2.0(人)未満	3(2)

※カッコ書きは前年度の数値

系統別輸送量	
50(人/日)以上	7(5)
20~50(人/日)未満	21(23)
15~20(人/日)未満	4(5)
15(人/日)未満	1(0)

※カッコ書きは前年度の数値

## ＜地域間幹線系統の確保・維持に関する課題＞

- 多くの系統が前年度と比べ同程度以上の利用者数であるものの、その増加幅は年々減少しており、新型コロナウイルスの影響による利用者減少からの戻りが収まりつつある。
- 輸送実績が減少している系統については、コロナ禍により変化したライフスタイル・交通ニーズに対応した路線の再編などの検討が必要。
- 人口減少が進む中で、日常生活や地域の交流を支えるため、幹線軸の維持・充実や地域内交通モードの最適化などが求められている。

## ＜対応方針＞

### ◆次期あいち交通ビジョン（仮称）の策定

- 人口減少下における公共交通のあり方や効率的で利便性の高い公共交通ネットワークの構築、公共交通の維持・確保に向けて、現在のあいち交通ビジョンと愛知県地域公共交通計画を統合し、県としてのビジョンを示すとともに、本県の施策の方向性を示すこととしている。切れ目なく取組を推進していくため、来年度中の策定に向けて協議を進めしていく。

### ◆地域内交通の最適な交通モードへの転換促進

- 公共交通ネットワークの機能維持・充実に向け、ワークショップ等において、市町村、交通事業者、地域住民等に助言を行うコーディネーターを派遣し、公共ライドシェアの導入など最適な交通モードへの転換に向けた検討を促す。

### ◆関係者間による情報共有・連携の促進

- 地域交通確保WG、尾三地区広域公共交通推進会議、田口新城線活性化検討会、市町村地域公共交通会議など、様々な機会を通じて情報共有を図り、連携を促進する。
- 継続して、輸送実績が低い系統を中心に、運行事業者・沿線市町村との意見交換を実施し、並行路線も含めた路線網の見直しや利用促進策を検討。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	愛知県地域公共交通計画に基づき、引き続き、地域間の公共交通ネットワークの確保維持に努められるとともに、「まもる」取組から「たかめる」取組へのシフトにも意識し、関係自治体・事業者等とさらに連携し、取組が進むことを期待します。	地域間の公共交通ネットワークを強化し、公共交通の利便性を高めるため、地域を跨ぐA I オンデマンド交通や尾張北部地域M a a Sの社会実装に向けた実証実験を実施した。	地域間交通の課題解消に繋がり、利便性を高める新モビリティサービスの社会実装に向けた取組の実施、横展開を図り、導入を促していく。
	愛知県独自の補助金の拡充や地域内交通の最適な交通モードへの転換促進に関する検討が、より具体化することを期待します。	県が実施するバス運行対策費補助金の要綱を改正し補助要件を緩和した。また、令和6年度に実施した実証実験について、セミナーや各種会議において周知を行い、他地域への横展開を図った。	県民生活を支える地域の足を「まもる」ため、引き続き、バス運行対策費補助金の継続や等、広域的な移動を支える幹線軸の維持に取り組んでいく。
	AIオンデマンド交通の社会実装に向けた実証実験等の成果について、効果を検証し、他の地域にも展開する等、より効果の拡大に繋がる取組がなされることを期待します。	令和6年度に実施した実証実験について、セミナーや各種会議において周知を行い、他地域への横展開を図った。	効果を多くの地域に拡大できるように、周知活動を引き続行う。
	輸送量や収支率が低く、維持が危ぶまれる地域間幹線系統については、状況を注視し、運行事業者や沿線自治体等と連携した取組の実施等、利用促進・系統維持等に資する取組が実施されることを期待します。	輸送量や収支率が低く、維持が危ぶまれる地域間幹線系統について、沿線市町村と連携し、利用促進等の取組を実施することを検討した。	引き続き、沿線市町村と連携し、取り組んでいく。
前々回	策定予定の愛知県地域公共交通計画に基づき、沿線自治体・関係事業者等と連携し、引き続き、地域間の公共交通ネットワークの確保維持に努められると共に、「まもる」から次の「たかめる」等についても取組が進むことを期待	地域間の公共交通ネットワークを強化し、公共交通の利便性を高めるため、地域を跨ぐA I オンデマンド交通や尾張北部地域M a a Sの社会実装に向けた実証実験を実施した。	地域間交通の課題解消に繋がり、利便性を高める新モビリティサービスの社会実装に向けた取組の実施、横展開を図り、導入を促していく。
	地域間幹線系統の利用促進について、県が関与した取組や各市町村の取組で成果が見えた取組に関しては、その成果の「見える化」についても検討や取り組まれることを期待	県が実施した地域間幹線系統の利用促進について、成果を県ホームページに掲載している。	引き続き県が地域間幹線系統の利用促進を実施した際に成果を県ホームページに掲載することで「見える化」に取り組んでいく。
	地域間幹線系統の必要性やあり方、維持方策など県の考え方等については、各市町村の協議会にて共有し、話し合い、その内容に応じて計画に反映される仕組みが計画に位置付けられることを期待	各市町村の地域公共交通会議において、地域間幹線系統の事業評価や県の施策等について共有し、話し合いを行った。	地域間幹線系統の必要性やあり方、維持方策など県の考え方等については、引き続き各市町村の地域公共交通会議にて共有・話し合いを行い、計画の見直しの際にはその内容を踏まえて検討していく。
	地域間幹線系統の確保維持にあっては、運転者不足や運転者に係る働き方改革の動向も踏まえながらフォローアップされることを期待	持続可能な公共交通の実現に向け、集客施設において、運転士など公共交通の運行に従事することの魅力や公共交通が担う多様な役割等について発信するイベントの実施を検討した。	持続可能な公共交通の実現に向け、具体的な取組内容の検討を引き続行う。

※前回：令和7年2月13日、前々回：令和6年2月14日

## ＜協議会の実施状況＞

### ◆令和7年度第1回愛知県公共交通協議会バス対策部会

日時：令和7年6月6日（金）

議題：①令和8年度地域間幹線系統への位置付け申し出路線に係る対応案について  
②愛知県地域公共交通計画別紙（令和8年度）の策定について

### ◆令和7年度第1回愛知県公共交通協議会（書面開催）

日時：令和7年6月13日（金）～6月23日（月）

議題：①「愛知県公共交通協議会設置規約」の改正について

### ◆令和7年度第2回愛知県公共交通協議会バス対策部会

日時：令和7年9月18日（木）

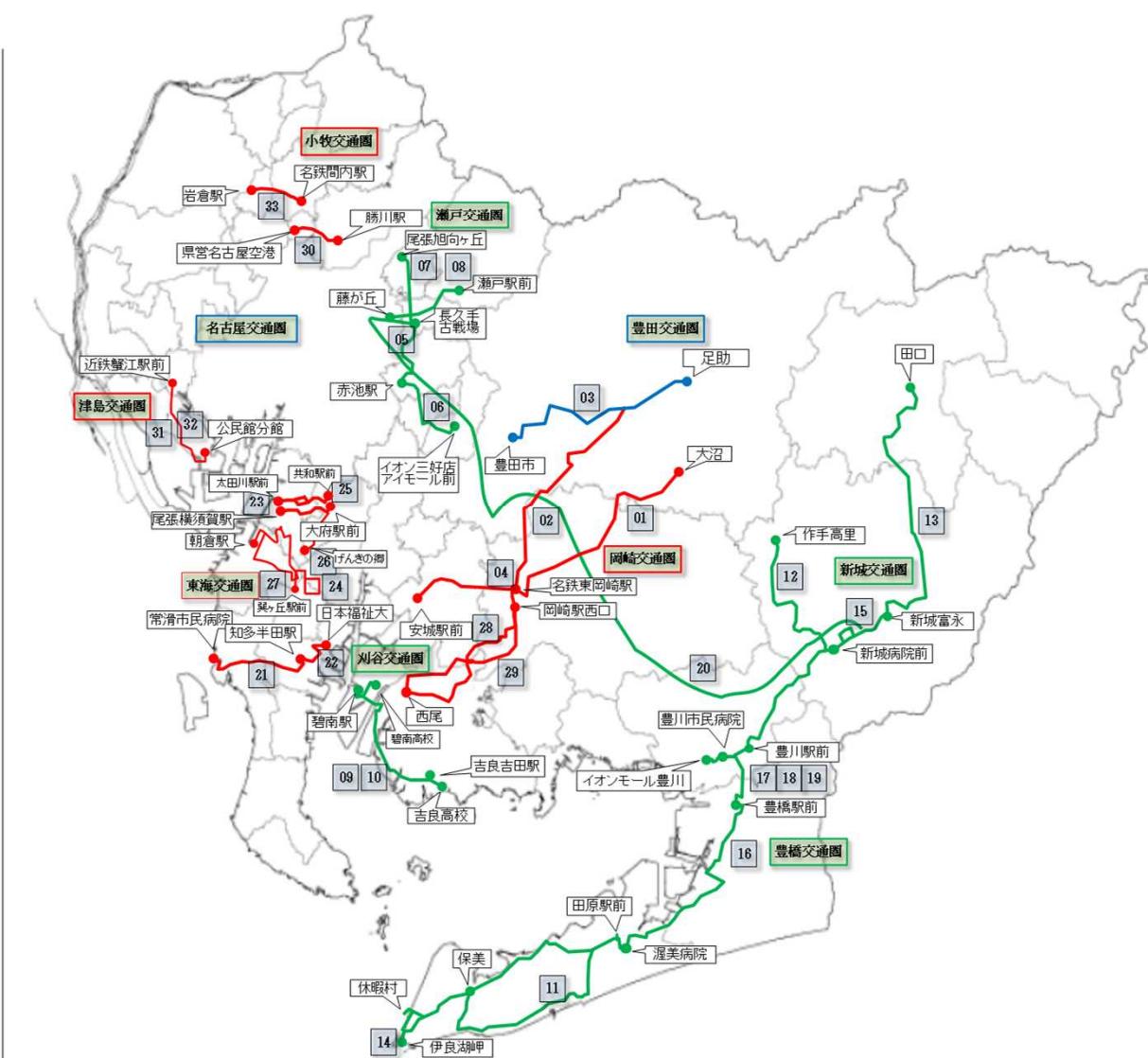
議題：①令和7年度愛知県地域公共交通計画別紙の変更について

### ◆令和7年度第3回愛知県公共交通協議会バス対策部会

日時：令和8年1月8日（木）

議題：①令和7年度愛知県地域公共交通計画に係る事業評価について

令和7年度 愛知県 地域間幹線系統路線一覧



交通圏	番号	系統名	輸送量
01名古屋	20	新城名古屋藤が丘	21.1
	30	勝川あいち航空ミュージアム	37.4
02豊橋	11	伊良湖支線(福祉C堀切)	21.8
	14	伊良湖本線(渥美病院休暇村明神)	29.1
	16	伊良湖本線(豊橋保美)	24.4
	17	豊川(体育馆前)	29.2
	18	豊川(イオン病院)	33.6
	19	豊川(イオンモール豊川)	34.7
	15	新豊	39.0
03岡崎	04	岡崎・安城	27.0
	28	岡崎・西尾(青野)	66.8
	29	岡崎・西尾(西尾市民病院)	40.6
	01	大沼	17.3
	02	岡崎・足助	33.9
05瀬戸・日進・豊明	05	日進中央	61.5
	06	星ヶ丘・豊田	22.7
	07	愛知医科大学病院	19.7
	08	本地ヶ原	37.2
06東海・半田・大府・常滑・美浜	21	半田・常滑(A)	29.3
	22	半田・常滑(N)	22.3
	23	横須賀(A)	40.9
	24	東ヶ丘団地	42.6
	25	上野台	85.3
	26	大府	38.0
	27	あいあいバス(北部循環コース)	31.0
07小牧・犬山・江南	33	岩倉	20.4
08津島・あま・弥富	31	飛島公共交通バス(蟹江線①)	75.1
	32	飛島公共交通バス(蟹江線②)	18.6
09刈谷・安城・碧南・西尾	09	ふれんどバス①	51.6
	10	ふれんどバス②	58.4
10豊田	03	矢並	50.4
11新城	12	作手	18.9
	13	田口新城	11.5

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

協議会名：愛知県公共交通協議会 バス対策部会

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

①補助対象事業者等	②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性 【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統／幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）					
					輸送量(人)			収支率(%)									
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間	R7 計画	R7 実績	平均乗車密度	運行回数	R6 実績	R7 実績							
01名古屋 05瀬戸・ 日進・ 豊明 11新城	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	20新城市名古屋藤が丘線	新城民病院西～長久手古戦場駅	・鳳来寺山の行楽シーズンにあわせ名古屋圏お客様をターゲットとした新聞広告を掲載しPR ・長久手市連賃貸成キャンペーンチラシの窓口配布及びHPで広報を実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標19653 実績19775 達成率100.6%  沿線市にて実施した利用促進キャンペーンによる	20.7	21.1	7.3	2.9	41.4	40.6	高速乗合バスとして新城市と名古屋市及び長久手市を結ぶ路線で、すべての利用者が市を跨ぐ利用をしており広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、新城市から名古屋への通勤・通学や名古屋圏から新城市への観光（特に鳳来寺山の紅葉シーズン）で利用されている。新城市民の長久手市内や日進市内の大学等への移動手段のほか、名古屋市内から新城市への観光利用があると考えられる。主として、新城市から名古屋市、長久手市への通勤、通学、通院、買い物などの生活に必要不可欠な移動手段になっている。 藤が丘商店街との繋がりを生かし、名古屋圏のイベントでのPRを継続して行う。また、長久手市でのイベントに積極的に参加し周知活動に取り組む 乗降調査の情報から移動ニーズを把握する 事業者及び新城市と連携し、キャンペーンチラシの配布や市主催のイベント等での周知を行うなど引き続き、利用促進に取り組む	・奥三河地域住民への周知を充実させ、引き続き、利用促進を図る必要がある ・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・沿線市と協力し、名古屋圏のイベントにてPRを実施する ・交通エコライフの取組を進め、公共交通利用促進を実施する ・藤が丘商店街との繋がりを生かし、名古屋圏のイベントでのPRを継続して行う。また、長久手市でのイベントに積極的に参加し周知活動に取り組む ・乗降調査の情報から移動ニーズを把握する ・事業者及び新城市と連携し、キャンペーンチラシの配布や市主催のイベント等での周知を行うなど引き続き、利用促進に取り組む
01名古屋 07小牧・ 犬山・ 江南	あおい交通(株)	あおい交通(株)	30勝川あいち航空ミュージアム	勝川駅～あいち航空ミュージアム	・県営名古屋空港へのアクセスとしてホームページなどでPRを実施 ・令和7年8月21日よりクレジットカードのタッチ決済による支払いを可能とし、旅客の利便性向上を図った ・春日井市シティバスマップへ当該路線を掲載し、公共交通利用促進のPR	A	計画通りの運行が実施されている。	B	目標70000 実績58279 達成率83.3%  減便による他機関へのシフト	28.0	37.4	4.4	8.5	51.8	42.9	春日井市及び豊山町内の利用は少なく、ほとんどの利用者が春日井市と豊山町を跨ぐ利用となっている。豊山町、春日井市間のみならず、鉄道路線へ乗り継ぐことで複数市町村への移動が可能となっており、重要な役割を果たしている。地域を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしている。	・ホームページ、関係市町との連携等によるPR活動の強化 ・春日井市シティバスマップへの掲載を継続し、公共交通利用促進をPR ・公共交通マップの作成を継続し、広報やイベント等での利用促進PRに取組むとともに、事業者との調整を図る
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	11伊良湖支線(福祉C堀切)	渥美病院～保美	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシのPR ・観光客向けに、便利でお得な企画切符（デジタルチケット）の造成 ・菜の花ガーデンへの路線延長 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ配架（3か国追加 計5か国語） ・観光地（菜の花ガーデン）への路線延伸	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標48445 実績53073 達成率109.6%  定期外利用者の増加	17.8	21.8	2.7	8.1	31.8	33.3	旧町を跨いでの利用が利用者の8割以上を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成高高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・周辺観光地のまつり期間中の平日も運行する ・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・市内高校生への通学定期券購入助成を継続して実施。また、助成額を3割から5割に増額 ・中学生・高校生対象の利用促進事業（パンフレット配布等）を実施 ・期間限定の観光地までの路線延伸 ・サイクルラックバス実証実験の実施 ・東三河MaaSいこまいの推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行なう ・支線沿いの地域住民等と意見交換
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	14伊良湖本線(渥美病院休暇村明神)	渥美病院～伊良湖岬	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシのPR。 ・観光客向けに、便利でお得な企画切符（デジタルチケット）の造成 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続実施 ・多言語チラシ配架（3か国追加 計5か国語）	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標65145 実績70851 達成率108.8%  定期外利用者の増加	25.2	29.1	2.8	10.4	35.7	33.4	旧町を跨いでの利用が7割以上を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成高高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布 ・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・市内高校生への通学定期券購入助成を継続して実施。また、助成額を3割から5割に増額 ・中学生・高校生対象の利用促進事業（パンフレット配布等）を実施する ・期間限定の観光地までの路線延伸 ・サイクルラックバス実証実験の実施 ・支線沿いの地域住民等と意見交換 ・東三河MaaSいこまいの推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行なう

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）			
						【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		輸送量(人)			収支率(%)					
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			R7 計画	R7 実績	平均 乗車 密度	運行 回数	R6 実績	R7 実績					
02豊橋	豊鉄バス(株)	16	伊良湖本線（豊橋保美）	豊橋駅前～保美	・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシのPR ・観光客向けに、便利でお得な企画切符（デジタルチケット）の造成 ・豊橋市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知	A	目標78471 実績82637 達成率105.3%  定期外利用者の増加  計画通りの運行が実施されている。	A	21.6	24.4	3.1	7.9	34.6	33.1	旧町を跨いでの利用が利用者の約4割を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。主に豊橋市内で完結する通勤・買い物・通院などの移動手段となっている。朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・観光客向けに、便利でお得な企画切符の造成 ・沿線市と協力し、技能実習生を対象とした多言語チラシや利用促進パンフレットの配布 ・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・交通系ICカードの普及を図る ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取組を行う ・市内高校生への通学定期券購入助成を継続して実施。助成額を3割から5割に増額した ・中学生・高校生対象の利用促進事業を実施 ・期間限定の観光地までの路線延伸 ・サイクルラックバス実証実験の実施 ・支線沿いの地域住民等と意見交換 ・東三河MaaSいこまいの推進によるデジタル環境の充実の取り組みを行う
02豊橋	豊鉄バス(株)	17	豊川（体育館前）	豊橋駅前～豊川体育館前	・沿線市の公共交通イベント時に、ICカード利用時の乗り方教室の実施 ・豊橋市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知	A	目標58663 実績49159 達成率83.8%  定期利用者の減少  計画通りの運行が実施されている。	B	25.3	29.2	4.5	6.5	91.0	82.4	市を跨いでの利用が利用者の約3割を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられる。主に豊橋市、豊川市への通勤・買い物・通院などの移動手段となっている。主として豊橋市、豊川市相互間の通勤利用など、住民の生活の足として利用されている。	・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・交通系ICカードの普及を図る ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取組を行う ・交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う
02豊橋	豊鉄バス(株)	18	豊川（イオン病院）	豊橋駅前～豊川市民病院～イオンモール豊川～豊川駅前	・沿線市の公共交通イベント時に、ICカード利用時の乗り方教室の実施 ・豊橋市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知	A	目標110383 実績103843 達成率94.1%  定期外利用者の減少  計画通りの運行が実施されている。	B	24.9	33.6	4.1	8.2	53.6	62.5	市を跨いでの利用が利用者の約3割を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられる。主に豊橋市、豊川市への通勤・買い物・通院などの移動手段となっている。主として豊橋市、豊川市相互間の通勤・通院・買い物利用など、住民の生活の足として利用されている。	・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・交通系ICカードの普及を図る ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取組を行う ・交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う
02豊橋	豊鉄バス(株)	19	豊川（イオンモール豊川）	豊橋駅前～イオンモール豊川	・沿線市の公共交通イベント時に、ICカード利用時の乗り方教室の実施 ・豊橋市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知	A	目標66284 実績68394 達成率103.2%  定期利用者の増加  計画通りの運行が実施されている。	A	33.1	34.7	4.4	7.9	60.7	66.1	市を跨いでの利用が利用者の約4割を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられる。主に豊橋市、豊川市への通勤・買い物・通院などの移動手段となっている。主として豊橋市、豊川市相互間の通勤・通院・買い物利用など、住民の生活の足として利用されている。	・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・交通系ICカードの普及を図る ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取組を行う ・交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う
02豊橋 11新城	豊鉄バス(株)	15	新豊	豊橋駅前～新城富永	・沿線市の公共交通イベント時に、ICカード利用時の乗り方教室の実施 ・豊橋市内の公共交通情報を掲載した公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知 ・新城市バスマップに新豊線の時刻表を掲載し、市内の主要施設で配布 ・個人ごとの行先の希望に応じた時刻表を作成する「マイバス時刻表」を継続して実	A	目標176959 実績149055 達成率84.2%  定期外利用者の減少  計画通りの運行が実施されている。	B	40.4	39.0	4.2	9.3	37.7	39.4	市を跨いでの利用が利用者の約3割を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者、大型商業施設等への買い物や豊川市民病院への通院利用者が大部分と考えられる。主に豊橋市、豊川市への通勤・買い物・通院などの移動手段となっている。豊川市主として豊橋市、豊川市相互間の通勤・通院・買い物利用など、住民の生活の足として利用されている。新城市から乗り換えなしで豊川市民病院や大型商業施設へ行くことができる路線であるため、通院や買い物に利用されている。	・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・交通系ICカードの普及を図る ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取組を行う ・交通系ICカード導入前後の周知を徹底し、利用促進を行う ・個別の要望に基づくマイバス時刻表の作成の継続、公共交通に关心のある地域住民によるコミュニティバスとの乗り継ぎや出かけツアーセンターの実施を促す
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄バス(株)	4	岡崎・安城	名鉄東岡崎駅～矢作橋～JR安城駅	・HP、CentXなどのスマートフォンで時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	目標45039 実績61924 達成率137.5%  定期外の利用者数が増加したため  計画通りの運行が実施されている。	A	23.3	27.0	2.2	12.3	32.3	31.6	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期6.1%、通学定期0.0%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者18.2%、現金、ICSFの定期外75.8%。路線自体の利用者数は減少し、市町村を跨ぐ利用者も減少している。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る ・公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取り組みを継続して行う ・時刻表、バスマップ、公共交通活用ガイド冊子等への掲載を継続するとともに、大型商業施設と連携した交通系ICカードを活用した利用促進策の周知を図る

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）					
						【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		輸送量(人)			収支率(%)							
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			R7 計画	R7 実績	平均 乗車 密度	運行 回数	R6 実績	R7 実績							
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	28	岡崎・西尾(青野)	東岡崎(藤田医大)～下青野～西尾	・路線沿線の施設の移設・増加など、環境の変化に合わせて令和6年12月1日にダイヤ改正を実施 ・お客さまに安心してご利用いただけるように定期券のIC化実施 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布等を行い、地域住民へ周知を図った	A	令和7年9月5日の台風15号による運休以外の運休はなかった。	A	目標162405 実績163690 達成率100.8%  manaca導入による利便性向上、沿線環境の変化	63.5	66.8	4.1	16.3	48.2	48.7	岡崎市中心部（東岡崎駅）からJR岡崎駅を経由してあるいは藤田医大からJR岡崎駅を経由して西尾市中心部へ至る市域を跨ぐ路線であり、地域住民の日常生活における交通手段を確保している。岡崎市から西尾市への通院・通学等の移動手段として利用されていると考えられる。各市域内での移動が多く見られるが、岡崎方面への通勤・通学利用や、岡崎市の病院への通院や商業施設への利用など広域的な利用も見られる。	・利用者の利便が向上する運行に努めていく。定時運行確保のため、道路状況の把握に努め、沿線市町とも協議をしていきたい ・藤田医大系統、東岡崎系統の両方について改善余地がないかダイヤ等の検討 ・公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取り組みを行う ・公共交通マップ、総合時刻表作成 ・「いこまいカード」から乗り継ぎ利用ができるということのPR ・外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布 ・乗り方教室等を通じたバス利用のPR
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	29	岡崎・西尾(西尾市民病院)	岡崎駅西口～西尾市民病院～西尾	・路線沿線の施設の移設・増加など、環境の変化に合わせて令和7年4月1日にダイヤ改正を実施 ・お客さまに安心してご利用いただけるように定期券のIC化実施 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布等を行い、地域住民へ周知を図った	A	令和7年9月5日の台風15号による運休以外の運休はなかった。	A	目標91592 実績101834 達成率111.2%  manaca導入による利便性向上、沿線環境の変化	35.9	40.6	3.5	11.4	38.5	47.3	JR岡崎駅と西尾市中心部を結ぶ市域を跨ぐ路線であり、沿線には藤田医大病院、西尾市民病院、西尾東高校があり通院・通学・通院の足として地域住民の移動手段を確保している。岡崎市から西尾市への通勤・通学等の移動手段として利用されていると考えられる。各市域内での移動が多く見られるが、岡崎方面への通勤・通学利用や、岡崎市の病院への通院や商業施設への利用など広域的な利用も見られる。	・利用者の利便が向上する運行に努めていく。定時運行確保のため、道路状況の把握に努め、沿線市町とも協議をしていきたい ・藤田医大系統、若松町系統の両方について改善余地がないかダイヤ等の検討を継続 ・公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取り組みを継続して行う ・デマンド型乗合タクシーとの乗り継ぎ利便性の周知を図る ・公共交通マップ、総合時刻表作成 ・「いこまいカード」から乗り継ぎ利用ができるということのPR ・外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布 ・乗り方教室等を通じたバス利用のPR
03岡崎 10豊田	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	1	大沼	名鉄東岡崎駅～岡崎北工前～大沼	・HP、CentXなどのスマートフォンで時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	計画通りの運行が実施されている。	B	目標50527 実績46844 達成率92.7%  シルバーバス、ゴールドバスの利用者数が落ち込んだため。	15.1	17.3	3.1	5.6	32.7	30.5	両市を跨ぐ利用者の内訳は、通勤0.0%、通学12.5%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者9.4%、現金、ICSFの定期外78.1%。鉄道駅（東岡崎）の利用者、市中心街地部への買物等のための利用者が大部分と考えられる。岡崎市豊田市南東部地域住民の東岡崎駅への移動や沿線高校への通学にも利用されていると考えられる。市町村を跨いでの移動は減少したものの、通学利用の割合が増加していることから、学生を中心に岡崎市への移動手段としての役割が大きくなっている。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る ・公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取り組みを継続して行う ・豊田市バスマップに当該路線の情報を掲載し、利用促進を図る
03岡崎 10豊田	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	2	岡崎・足助	名鉄東岡崎駅～細川～足助	・HP、CentXなどのスマートフォンで時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標124534 実績132393 達成率106.3%  通学定期、シルバーバス・ゴールドバス、定期外の利用者数が増加したため	32.3	33.9	4.3	7.9	45.0	39.6	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期9.6%、通学定期23.1%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者25.0%、現金、ICSFの定期外42.3%。路線自体の利用者数は減少したが、市町村を跨ぐ利用者は増加しており、岡崎市内の利用者が大部分と考えられる。豊田市から岡崎市内の沿線学校への通学利用が多いと考えられる。また豊田市内の足助・香嵐溪への観光目的の利用も多い。市町村を跨いでの利用者が増加していることから、通勤・通学のほか観光等の利用者の移動手段としての役割が大きいと考えられる。	・都市間の交流を促進するために必要な路線であるため、豊田市と協調して維持及び改善を図っていく必要がある ・公共交通マップの作成・配布等、現在実施している取り組みを継続して行う ・豊田市バスマップに当該路線の情報を掲載し、利用促進を図る
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	5	日進中央	赤池駅～日進市役所～長久手古戦場駅	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・市HPでの本路線の周知 ・公共交通ガイドブックを作成・配布 ・市イベント等でのチラシ配布 ・尾三地区合同のバスイベントを実施	A	計画通りの運行が実施されている。	B	目標128977 実績126417 達成率98.0%  通勤定期、通学定期の利用者数が落ち込んだため	58.5	61.5	4.1	15.0	54.4	52.8	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期8.3%、通学定期4.8%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者4.8%、現金、ICSFの定期外82.1%。路線自体の利用者数は増加しているが、市町村を跨ぐ利用者は減少している。日進市南西部の赤池駅と北部の長久手古戦場駅を結び、住民の南北移動の軸となっている。交通結節点を結ぶ他、コミュニティバスとも接続し、幹線として重要な役割を担う路線であり、幹線として重要な役割を担う路線である。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る ・近隣市と接続のある路線の交通事業者と連携を図りながら、イベントの開催や情報紙の発行などを行い、市民に隣接市へアクセスできることを周知する

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）			
						【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		輸送量(人)			収支率(%)					
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			R7 計画	R7 実績	平均 乗車 密度	運行 回数	R6 実績	R7 実績					
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	6	赤池駅～御岳～イオン三好店アモール前	星ヶ丘・豊田	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・時刻表を市役所窓口等で配布 ・近隣市町が実施した本路線利用促進イベントの周知 ・東郷町、名鉄バス㈱及びみよし市が連携してバス利用促進イベント（車両展示、乗車体験等）を実施 ・沿線の商業施設と連携した利用促進モデル事業を実施	A	目標34963 実績43966 達成率125.8%  定期外の利用者数が増加したため  計画通りの運行が実施されている。	A	16.9	22.7	3.5	6.5	37.0	45.0	市町域を跨ぐ内訳は、通勤4.8%、通学0.0%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者6.5%、現金、ICSFの定期外88.7%。路線自体の利用者は増加し、市町村を跨ぐ利用者も増加している。イオンモール三好店、プライムツリー赤池への買い物移動需要を支える他、赤池駅に接続することにより、広域移動を確保する重要な路線である。名古屋方面への交通手段、また、市外からの来訪者の交通手段として重要な役割を果たしている。利用者の大多数が近隣市の拠点である赤池駅及びイオン三好店への交通手段として機能しており、沿線地域住民の重要な役割を果たしている。  赤池駅、東郷町の大型商業施設開業後の利用状況等について、沿線市町と情報共有を行う ・市HP、広報等を用い、本路線のPRを行い、公共交通利用促進に努める ・商業施設等において、近隣市町と交通事業者が連携した利用促進イベントを実施するとともに、引き続きイオン三好ショッピングセンター内にバスマップを設置する ・商業施設や近隣市と連携してバス利用促進イベントや周知啓発を実施する。また、庁舎内及び公民館等の町施設に路線案内チラシを配架し、周知を図る
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	7	長久手古戦場駅～愛知医科大学病院～尾張旭向ヶ丘	愛知医科大学病院	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・市主催イベントや市内商業施設等でルートマップや時刻表を配布	A	目標49997 実績54649 達成率109.3%  通勤定期の利用者数が増加したため  計画通りの運行が実施されている。	A	18.5	19.7	1.7	11.6	31.6	25.1	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期13.2%、通学定期13.2%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者1.1%、現金、ICSFの定期外72.5%。路線自体の利用者は減少しているが、市町村を跨ぐ利用者は増加している。長久手高校への通学、愛知医大への通院、長久手市方面への移動といった本市を南北に移動するための重要な路線となっている。尾張旭市駅と長久手古戦場駅を結ぶ路線であり、交通結節点同士を結ぶ幹線として重要な役割を担う路線である。  イベント、ルートマップ・時刻表の配布等により、利用促進を図る ・バスロケーションシステムによる運行情報の提供を行い利便性向上を図る ・長久手市と接続のある路線の交通事業者と連携を図りながら、イベントの開催や情報紙の発行などを行い、市民に隣接市へアクセスできることを周知する
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	8	藤が丘～愛知医科大学病院～瀬戸駅前	本地ヶ原	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・市主催のイベントや市内の商業施設、転入者用パンフレットへの同封等でルートマップや時刻表を配布	A	目標103125 実績117871 達成率114.3%  通勤定期の利用者数が増加したため  計画通りの運行が実施されている。	A	37.2	37.2	4.6	8.1	69.2	69.3	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期5.6%、通学定期17.4%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者5.2%、現金、ICSFの定期外71.9%。路線自体の利用者は減少し、市町村を跨ぐ利用者も減少している。瀬戸市民、尾張旭市民、長久手市民の名古屋市内や愛知医大への移動手段としての利用が考えられ、名古屋市内から愛知医大への通院利用が多い状況にある。沿線住民の鉄道駅への接続及び通院や買い物の足としても利用されてる。交通結節点同士を結んでおり、幹線として重要な役割を担う路線である。  ・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・交通エコライフの取組を進め、公共交通利用促進を実施する ・ホームページやコミュニティバス車内などを通じて乗継情報やゴールドバス・シルバーバス等の周知を行い、利用促進を図る ・市主催のイベント、ルートマップ・時刻表の配布等により、利用促進を図る。また、バスロケーションシステムによる運行情報の提供を行い利便性向上を図る ・交通事業者と連携を図りながら、イベントの開催や情報紙の発行などを行い、市民に隣接市へアクセスできることを周知する
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	21	知多半田駅～青山駅前～常滑駅	半田・常滑(A)	・関係する自治体と連携を図り、PR活動や周知を実施 ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続 ・高齢者運転免許自主返納促進事業 ・バスロケーションシステムを継続実施	A	目標85000 実績68048 達成率80.1%  昼間時間帯の利用者が減少が要因の一つと推察  計画通りの運行が実施されている。	B	40.0	29.3	3.3	8.9	44.0	40.2	市境をまたぐ利用がおよそ3割を占め、広域的な路線の役割を果たしている。知多半田駅及び常滑駅において鉄道線へ乗り換えるケースが見受けられる。半田市の南部、西部の市民が常滑駅での乗り換え、通勤や通学のほか、買い物など様々な日常生活の移動として利用している。半田市と常滑市の市街地を結ぶ系統で、鉄道駅を利用する通勤通学者の他、沿線の学校への通学の足としても機能している。また、常滑市民が半田市域の職場や高校への通勤・通学の移動手段を確保するため、必要な路線である。  ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討 ・官民合わせた情報発信のほか、路線の継続に向けた取り組みを推進 ・鉄道やバスの相乗効果により利便性を向上し、利用者を増加させるため鉄道やコミュニティバス等との乗り継ぎが可能となるダイヤの改善と他事業者との調整 ・病院間シャトルバスの休止
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	22	日本福祉大学～知多半田駅～常滑駅	半田・常滑(N)	・関係する自治体と連携を図り、PR活動や周知を実施 ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続 ・高齢者運転免許自主返納促進事業 ・バスロケーションシステムを継続実施	A	目標65000 実績59110 達成率90.9%  鉄道駅への通勤利用者及び通学利用者、駅周辺施設の利用によるものと推察  計画通りの運行が実施されている。	B	19.0	22.3	6.2	3.6	40.2	45.8	市境をまたぐ利用がおよそ3割を占め、広域的な路線の役割を果たしている。知多半田駅及び常滑駅において鉄道線へ乗り換えるケースが見受けられる。半田市の南部、西部の市民が常滑駅での乗り換え、通勤や通学に利用しているほか、日本福祉大学学生が通学のために利用している。半田市と常滑市の市街地を結ぶ系統で、鉄道駅を利用する通勤通学者の他、沿線の学校への通学の足としても機能している。また、常滑市民が半田市域の職場や高校、大学への通勤・通学の移動手段を確保するため、必要な路線である。  ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続する ・官民合わせた情報発信のほか、路線の継続に向けた取り組みを推進していく ・鉄道やバスの相乗効果により利便性を向上し、利用者を増加させるため鉄道やコミュニティバス等との乗り継ぎが可能となるダイヤの改善と他事業者との調整 ・病院間シャトルバスの休止

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）				
						【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		輸送量(人)			収支率(%)						
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			R7 計画	R7 実績	平均 乗車 密度	運行 回数	R6 実績	R7 実績						
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(A)	23 横須賀(A)	大府駅前～尾張横須賀駅	・関係する自治体と連携を図り、PR活動や周知を実施 ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続 ・東海市循環バス路線図に路線バスの路線や乗り継ぎできるバス停を明示し、時刻表を配布する際に路線バスの時刻表を併せて配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標58534 実績69062 達成率118.0%  鉄道駅への通勤利用者及び通学利用者、駅周辺施設の利用によるものと推察	29.7	40.9	4.4	9.3	65.3	67.6	市境をまたぐ利用がおよそ5割弱にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。東海市東海市と大府市を結ぶ重要な公共交通手段であり、鉄道駅での乗り継ぎによる通勤利用者や東海市・大府市内の高等学校や支援学校への通学利用者が多い。前年度に比べると、月の利用者数が、ゆるやかに増加している。大府市、東海市とともに高等学校近くに停留所があることや、鉄道駅を結ぶことにより、朝夕の通勤・通学利用者が多い。また、所轄の警察署まで行く手段もある。	・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続する ・名鉄加木屋中ノ池駅の駅前広場に市循環バスのバス停を新設することに伴うダイヤ改正の際に、横須賀(A)線への乗り継ぎを可能な限り検討するとともに、利用促進対策を三社で模索する ・横須賀(A)線のPR活動を継続するとともに、路線バスにおける利用者増加策を三者で模索する
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合	24 東ヶ丘	東ヶ丘駅前～巽ヶ丘駅前（循環）	・関係する自治体と連携を図り、PR活動や周知を実施 ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続 ・東浦町行政バス「う・ら・ら」の回数券を当路線でも利用できるようにしているため、回数券共通利用のPRとともに、当路線の利用促進を実施 ・阿久比町のバスマップに東ヶ丘付近の拡大図を掲載	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標28273 実績31149 達成率110.2%  名鉄巽ヶ丘駅への通勤・通学利用者及びマルス東ヶ丘店への買い物客の利用と推察	29.8	42.6	2.0	21.3	30.6	36.2	市境をまたぐ利用がおよそ9割にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。東浦町西部の東ヶ丘団地の住民は、通勤通学に名鉄巽ヶ丘駅を利用することが多い。巽ヶ丘駅から鉄道への乗り継ぎ利用が多いと考えられる。その他、知多市のコミュニティ交通あいあいバスへの乗継ぎも可能。阿久比町本町の循環バスとの乗継利用や、高根台在住の住民に利用されている。	・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討 ・乗り方教室等の利用促進策を講じると共に、名鉄巽ヶ丘駅付近の利用者について交通需要の把握を行い、運行事業者と協議を行っていきたい ・「巽ヶ丘駅西」バス停に、他のバス路線に乗継ぎができることを周知するチラシを掲示 ・地域住民への周知を継続
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合	25 上野台	共和駅前～上野台～太田川駅前	・関係する自治体と連携を図り、PR活動や周知を実施 ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続 ・東海市循環バス路線図に路線バスの路線や乗り継ぎできるバス停を明示し、時刻表を配布する際に路線バスの時刻表を併せて配布 ・市の公共施設へのアクセス案内に路線バスでのアクセスを掲載	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標179060 実績186447 達成率104.1%  鉄道駅への通勤利用者及び通学利用者、駅周辺施設の利用によるものと推察	66.3	85.3	5.4	15.8	87.1	88.7	市境をまたぐ利用がおよそ3割にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。東海市と大府市を結ぶ重要な公共交通手段であり、鉄道駅と結ぶことによる通勤・通学利用及び買い物利用者が多い。大府市、東海市ともに、鉄道駅を結ぶことにより、通勤・通学及び買い物利用者が多い。	・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討 ・名鉄加木屋中ノ池駅の駅前広場に市循環バスのバス停を新設することに伴うダイヤ改正の際に上野台線への乗り継ぎを可能な限り検討するとともに、利用促進対策を三社で模索する ・上野台線のPR活動を継続するとともに、路線バスにおける利用者増加策を三者で模索する
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合	26 大府	大府駅前～長寿医療センター～げんきの郷	・関係する自治体と連携を図り、PR活動や周知を実施 ・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討を継続 ・相互利用促進のため、大府市循環バスの路線図・時刻表に大府線への乗継箇所を明示し、公共施設窓口及び市内主要施設へ配置	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標59621 実績63343 達成率106.2%  国立長寿医療研究センター及びあいち小児保健医療総合センターへの通院、並びにげんきの郷及びあいち健康プラザの施設利用による	30.0	38.0	3.8	10.0	87.6	78.0	市境をまたぐ利用がおよそ2割弱にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。朝夕を中心とした通勤・通学に加え、日中の通院やげんきの郷利用者が多い。東浦町北部の森岡地区の住民は、通勤通学にJR大府駅を利用することが多い。	・誰にでもわかりやすく、利用しやすいダイヤの設定、見直しの検討 ・大府線のPR活動を継続するとともに、路線バスにおける利用者増加策を三者で模索 ・乗り方教室等の利用促進策を講じると共に、大府駅へ向かう森岡地区的利用者について、交通需要の把握を行い、運行事業者と協議を行っていきたい
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合	27 あいあいバス(北部循環コース)	朝倉駅～朝倉駅（循環）	・バスロケーションシステムを利用者が手軽に使い始められるよう、バス停にアクセス用のQRコードを掲載 ・市内イベントに合わせて市広報誌等により公共交通利用促進を実施 ・バスロケーションシステムの導入（東海市） ・バスロケーションシステムの周知 ・高齢者を対象としたバスロケーションシステム講習会の継続実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標62800 実績72873 達成率116.0%  令和2年の路線再編により、路線の利便性が向上し、利用者の増加につながったため	25.2	31.0	3.2	9.7	6.3	7.0	東海市にある公立西知多総合病院と、阿久比町にあるカネスエ阿久比店の利用が多い。また、知多市東部地区の住民は、隣接する東海市や阿久比町に生活圏があることから、通院・買い物など日常生活の移動手段として利用されている。乗り継げるバス停が増えたことで、相互利用による住民の往来が増えている。本町の循環バスとの乗継利用や、市民の西知多総合病院へのアクセスに利用されている。	・バスロケーションシステムの積極的なPRと、システムを活用した利用実態の把握 ・バスの乗り方教室の開催等、バスの利用方法の啓発 ・アンケート調査や乗降調査の分析を進め、あいあいバスとの相互利用が可能なダイヤ・ルートを引き続き検討 ・バスロケーションシステムについて周知し、利用者の利便性向上を図る ・町役場において時刻表を配架

①補助対象事業者等	②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）				
					【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		輸送量(人)			収支率(%)						
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間		R7 計画	R7 実績	平均乗車密度	運行回数	R6 実績	R7 実績						
名鉄バス(株)	東濃鉄道(株)	33 岩倉	岩倉駅～藤島団地～名鉄間内駅	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・小牧市沿線地区回覧、沿線小中学校、沿線事業所へのチラシ配布 ・路線図、時刻表の配布やHPへの掲載 ・市内イベントにおいて啓発活動実施	A	目標26530 実績37687 達成率142.1%  計画通りの運行が実施されている。	A	定期外の利用者数が増加したため	19.2	20.4	1.7	12.0	42.5	37.0	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期11.4%、通学定期2.5%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者1.3%、現金、ICSFの定期外84.8%。路線自体の利用者数は減少しているが、市町村を跨ぐ利用者は増加している。小牧市南西部の北里地区の住民が鉄道駅（岩倉駅、間内駅）へのアクセス手段として利用していると考えられる。主に小牧市内と岩倉駅を結ぶアクセス手段として利用していると考えられる。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る ・沿線地区での回覧、沿線小中学校へのチラシ配布等による路線の周知と利用の促進を図るとともに、路線マップや時刻表等が記載されたチラシの窓口設置やホームページへの掲載、イベントでの啓発活動を行う ・利用者数の増加に向け、引き続き利用促進を図る必要がある
飛島村	三重交通(株)	31 飛島公共交通バス(蟹江線①)	近鉄蟹江駅前～公民館分館	・運行事業者や関係自治体との協議、地域公共交通計画に基づき、5年間で掲げた施策を推進をする ・ふるさとフェスタでのPR活動 ・地域公共交通再編のため、住民意見交換会を開催し、地域の方が望んでいる公共交通網について検討	A	目標125000 実績143656 達成率114.9%  計画通りの運行が実施されている。	A	通勤利用者数が回復傾向にあるため	71.6	75.1	4.2	17.9	44.2	41.9	往路復路ともに、近鉄蟹江駅を利用する通勤・通学者が大多数を占めていると思われる。飛島村在住の利用者をはじめ、弥富市南部の在住者、また、近鉄蟹江駅前から飛島村臨海部への通勤者も多く、市町村をまたぐ系統として役割は大変大きい。十四山地区住民を中心に、名古屋市方面への通勤・通学・買い物等のために近鉄蟹江駅の利用があると考えられる。路線付近住民が、近鉄蟹江駅や弥富市、飛島村へ通勤通学の手段として利用されている。	・地域公共交通計画策定時に実施したアンケート調査等に基づく令和7年1月1日から実施する蟹江線・名港線のダイヤ改正 ・蟹江線と接続する東部ルートについてきんちゃんバスを運休し、デマンド交通チョイソコやとみを実証運行し、公共交通網再編を行う ・利用者の幅を広げるため、沿線上のイベントや行事のPRや、他の交通機関との連携を強化
飛島村	三重交通(株)	32 飛島公共交通バス(蟹江線②)	近鉄蟹江駅前～新政成神社	・運行事業者や関係自治体との協議、地域公共交通計画に基づき、5年間で掲げた施策を推進をする ・ふるさとフェスタでのPR活動 ・地域公共交通再編のため、住民意見交換会を開催し、地域の方が望んでいる公共交通網について検討	A	目標35000 実績30182 達成率86.2%  計画通りの運行が実施されている。	B	通勤利用者数が回復傾向にあるため	17.6	18.6	3.8	4.3	44.2	41.9	往路復路ともに、近鉄蟹江駅を利用する通勤・通学者が大多数を占めていると思われる。飛島村在住の利用者をはじめ、弥富市南部の在住者、また、近鉄蟹江駅前から飛島村臨海部への通勤者も多く、市町村をまたぐ系統として役割は大変大きい。十四山地区住民を中心に、名古屋市方面への通勤・通学・買い物等のために近鉄蟹江駅の利用があると考えられる。路線付近住民が、近鉄蟹江駅や弥富市、飛島村へ通勤通学の手段として利用されている。	・地域公共交通計画策定時に実施したアンケート調査等に基づく令和7年1月1日から実施する蟹江線・名港線のダイヤ改正 ・蟹江線と接続する東部ルートについてきんちゃんバスを運休し、デマンド交通チョイソコやとみを実証運行し、公共交通網再編を行う ・利用者の幅を広げるため、沿線上のイベントや行事のPRや、他の交通機関との連携を強化
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	9 ふれんどバス①	吉良高校～碧南駅	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・時刻表の配布 ・市広報やHPで情報を発信PR	A	目標124763 実績136452 達成率109.4%  計画通りの運行が実施されている。	A	通勤定期の利用者数が増加したため	42.0	51.6	4.3	12.0	23.3	26.6	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期75.7%、通学定期0.0%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者0.0%、現金、ICSFの定期外24.3%。路線自体の利用者数は増加し、市町村を跨ぐ利用者も増加している。住宅地と駅や学校を結ぶバスとして、市を跨いだ通勤通学に大きな役割を果たしていると考えられる。地域外からの一色高校、吉良高校、碧南高校への通学利用の他、沿線地域の住民が鉄道を利用する際に吉良吉田駅・碧南駅までの広域的な利用が見られる。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る ・割引制度等のホームページ掲載によるわかりやすい情報提供 ・サイクル＆バスライドの推進 ・公共交通マップ、総合時刻表作成 ・「いこまいかー」や「相乗りタクシー」といった他の交通モードから乗り継ぎ利用ができるということのPR ・増加傾向にある外国语住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布 ・乗り方教室等を通じたバス利用のPR
名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	10 ふれんどバス②	吉良高校～碧南高校	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・時刻表の配布 ・市広報やHPで情報を発信PR	A	目標136960 実績178343 達成率130.2%  計画通りの運行が実施されている。	A	通勤定期の利用者数が増加したため	51.4	58.4	5.9	9.9	31.4	33.8	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期74.8%、通学定期0.0%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者0.0%、現金、ICSFの定期外25.2%。路線自体の利用者数は減少しているが、市町村を跨ぐ利用者は増加している。住宅地と駅や学校を結ぶバスとして、市を跨いだ通勤通学に大きな役割を果たしていると考えられる。地域外からの一色高校、吉良高校、碧南高校への通学利用の他、沿線地域の住民が鉄道を利用する際に吉良吉田駅・碧南駅までの広域的な利用が見られる。	・都市間の交流を促進するために必要な路線であるため、豊田市と協調して維持及び改善を図っていく必要がある。 ・公共交通マップへの掲載。 ・割引制度等のホームページ掲載によるわかりやすい情報提供。 ・サイクル＆バスライドの推進。 ・公共交通マップ、総合時刻表作成 ・「いこまいかー」や「相乗りタクシー」といった他の交通モードから乗り継ぎ利用ができるということのPR ・外国语住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布 ・乗り方教室等を通じたバス利用のPR

①補助対象事業者等	②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）				
					【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		輸送量(人)			収支率(%)						
	運営主体	運行事業者	No.	系統名	運行区間	R7 計画	R7 実績	平均 乗車 密度	運行 回数	R6 実績	R7 実績					
10豊田	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	3	矢並	豊田市～矢並区民会館前～足助	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・路線情報を市バスマップ、市HPに掲載	A 計画通りの運行が実施されている。	A 目標115108 実績126195 達成率109.6%  通学定期の利用者数が増加したため	39.2	50.4	4.5	11.2	40.6	45.6	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期21.6%、通学定期48.6%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者1.4%、現金、ICSFの定期外28.4%。路線自体の利用者数は増加し、市町村を跨ぐ利用者も増加している。地区を跨いでの移動をする利用者が多く、学生、観光客を中心に豊田市街地への移動手段としての役割が大きい。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る ・豊田市バスマップに当該路線の情報を掲載し、利用促進を図る
11新城	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	12	作手	新城富永～作手高里	・沿線市と協力して、バスマップの発行、配布を行い周知した ・バスマップを発行し市内主要施設に設置し周知を図った ・作手地域の観光地へ行き方への乗り換え案内	A 計画通りの運行が実施されている。	B 目標58639 実績44679 達成率76.2%  定期利用者の減少	20.1	18.9	3.1	6.1	62.7	57.4	旧市村を跨いでの利用が利用者の9割以上を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、新城有教館高校、新城有教館高校作手校舎への通学利用者や新城市民病院への通院や新城駅への鉄道利用者が大部分と考えられる。旧新城市から有教館高校作手校舎への通学、旧作手村から旧新城市内又は豊橋市、豊川市の高校への通学及び新城市民病院への通院に利用されている。	・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・作手地域住民との意見交換を通じ、利便性向上のための方法を検討 ・1日乗車券等お得な乗車券の周知
11新城	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	13	田口新城	新城富永～設楽町役場	・ゾーン制運賃の導入や設楽町役場への延伸などを実施 ・新城市運行経路がほぼ同じである一路線を廃止し、本路線への利用の統一を図った ・廃止路線の代替路線として、実証実験を経て区域内デマンドバスの本格運行を始めたことで、幹線へつなぐ交通手段を確保 ・地域住民を中心に、独自のバスツアーを計画し、新たな利用者の確保を図った	A 計画通りの運行が実施されている。	B 目標47941 実績47233 達成率98.5%  定期外利用者の減少	31.1	11.5	1.3	8.9	25.9	11.2	旧市町を跨いでの利用が利用者の4割以上を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、田口高校、新城有教館高校への通学利用者や新城市民病院への通院や本長篠駅への鉄道利用者が大部分と考えられる。旧鳳来町在住の高校生の新城有教館高校への通学手段の一つとして利用されていると考える。また、旧新城市と旧鳳来町、設楽町間の通勤や買い物、観光などに利用されている。設楽町在住高校生の新城有教館高校への通学手段が主な利用と考える。また、静巣堂医院及び新城市民病等、医療機関への通院や大手スーパーへの買い物にも利用されている。	・通学利用者の利便性を高めるため、最終便の繰り下げなどを実施 ・令和7年3月に導入した交通系ICカードのPRに努め、利用者利便性向上を図る ・本長篠駅周辺の公共交通案内の分かりにくさの改善のため、デジタルサイネージの整備を行う ・待合環境を整えるため、田口バス停の改修を実施（R8.3完了予定） ・通学環境を整えるため、最終便の時間延長を行うダイヤ改正を実施（R8.4～実施予定）

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名： 愛知県地域公共交通協議会 バス対策部会

評価対象事業名： 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

地域の交通の目指す姿  
(事業実施の目的・必要性)

鉄軌道網の整備が進み基幹的公共交通網は維持されているが、自動車分担率が高い地域であることを踏まえた上で、複数市町村を跨ぐ広域的・幹線的な公共交通網の維持・確保を図る。  
実施に当たっては、乗合バス事業者等運営主体と沿線市町村が協力して目標設定、利用促進、利便性・生産性向上検討を行い、事業評価にあたっても、運営主体、沿線市町村が情報交換、意見交換を行って、路線の状況を共有する。